平成28年 第1回 まんのう町議会定例会

まんのう町告示第11号

平成28年第1回まんのう町議会定例会を次のとおり招集する。

平成28年2月18日

まんのう町長 栗田 隆義

1. 招集日 平成28年3月1日
2. 場 所 まんのう町役場議場

平成28年第1回まんのう町議会定例会会議録（第3号）

平成28年3月3日（木曜日）午前 9時30分 開会

出席議員 15名

1番 竹林 昌 秀	2番 川 西 米希子
3番 田 岡 秀 俊	4番 合 田 正 夫
5番 三 好 郁 雄	6番 白 川 正 樹
7番 白 川 年 男	8番 白 川 皆 男
9番 大 西 樹	10番 藤 田 昌 大
11番 松 下 一 美	12番 三 好 勝 利
13番 大 西 豊	14番 川 原 茂 行
15番 関 洋 三	

欠席議員 なし

会議録署名議員の指名議員

10番 藤 田 昌 大 11番 松 下 一 美

職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長 青 野 進 議会事務局課長補佐 常 包 英 希

地方自治法第121条の規定により、説明のため出席した者の職氏名

町 長 栗 田 隆 義 副 町 長 栗 田 昭 彦
教 育 長 斉 藤 賢 一 総 務 課 長 齋 部 正 典

企画政策課長	高嶋一博	税務課長	脇隆博
住民生活課長	森末史博	福祉保険課長	川田正広
会計管理者	仁木正樹	健康増進課長	見間照史
建設土地改良課長	池田勝正	産業経済課長	高橋守
琴南支所長	雨霧弘	仲南支所長	和泉博美
学校教育課長	尾崎裕昭	社会教育課長	長森正志
水道課長	天米賢吾	地籍調査課長	山内直樹

○関洋三議長 おはようございます。

ただいま、福祉保険課長のほうから申し出がございまして、ちょっと緊急な所用ができて、退席するという連絡がありました。かわりの者が、今、来られるようになっておりますので、御了承ください。

それでは、ただいまの出席議員は15名であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程はあらかじめお手元に配付したとおりであります。

日程第1 会議録署名議員の指名

○関洋三議長 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第126条の規定により、議長において、10番、藤田昌大君、11番、松下一美君を指名いたします。

日程第2 一般質問

○関洋三議長 日程第2、一般質問を行います。

昨日に続いて2日目ですけれども、本日は5名予定しております。最初に三好郁雄議員、続いて白川正樹議員、3番目に白川年男議員、4番目に三好勝利議員、最後、5番目に大西豊議員を予定しております。

それでは質問の通告がありますので、順次発言を許可いたします。

議席番号5番、三好郁雄君、1番目の質問を許可しますので、前へ出てください。

○三好郁雄議員 改めまして、おはようございます。きょうは、皆様、御存じでしょうけど、3月3日、ひな祭りでございます。いわゆるもう一つの言い方は桃の節句ともいうんですが、これは旧暦で言ったら、桃の咲く時期が今の時期であるということで、桃の節句というそうです。

それでは議長に発言の許可をいただきましたので、通告に従いまして一般質問いたします。

1番目が、ことなみ未来会議をどのように考えているかということで、琴南中学校の跡

地利用について未来会議を設置して検討するとのことであるが、地域全体の問題であり、個々の考えだけでなく、地域を旧美合地区、旧造田地区に分けて検討してはどうかと。

それと、まんのう町全体を見ても、民宿も何もないので、中学校の跡地を、和室、洋室を取り入れてはどうか。

それと、食事についてはランチルームが現在あるので、少し手を入れて、そのまま使用できる便があるので、便利である。

それと、ことなみ未来会議に国の地方創生加速化交付金というのを活用したらというのが、新聞に入ってたんですが、これ、ものづくりプロジェクトで、ことなみ未来会議事業に3,710万円を計上しているようであるので、まずこの未来会議を開く前に、町長の考えている中で二つぐらいの方針を立ててから、旧造田地区と美合地区に分けて、自治会ごとの意見を聞いてからしてはどうかと私は思うんですが、専門家である徳島大学の田口先生を中心にしているいろいろ考えて模索していけばと私なりにこういう考えを持ってちょっと一般質問したんですが、町長の御答弁をお願いします。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 三好郁雄議員の、ことなみ未来会議どのように考えているのかの御質問にお答えいたします。

具体的には、この3月で廃校となる琴南中学校跡地利用について、ことなみ未来会議においてどのような検討をするのかという御質問であろうと思います。

ことなみ未来会議は、琴南地区の活性化について、その明確な方向性を示すに当たり、琴南中学校廃校後の跡地及び施設の利活用を含め、人口減少に歯どめをかける施策、それに伴う現存の公共施設の利活用を総合的に検討するために設置いたしております。

ことなみ未来会議は、あくまで行政主導でなく、計画の段階から多くの住民が参加し、地域の進むべき方向性を住民みずから決めていくための、いわゆる住民参加型の会議であり、まちづくりの専門家である徳島大学総合科学部准教授の田口太郎先生に地区住民の座談会やワークショップ等の調整、まとめ役、また、限界集落内の生活環境等の調査分析をお願いしております。

また、地区の議員さん方にはオブザーバーとして参加をお願いいたしておるところでございます。

琴南中学校の跡地利用問題は喫緊の課題でありますので、現在、ことなみ未来会議の中に、地域の方が発起人となり検討部会を組織すべく準備を進めております。

平成28年度からは、田口先生を中心に検討部会の中でワークショップや先進地の視察を行い、地域活性化に有効な利活用の方策について検討することといたしております。

全国の廃校利活用の状況を見ますと、三好議員さんがお考えのような宿泊施設を初め、都市部の企業・団体が地方に拠点を構えるサテライトオフィス、大学との連携によるセミナーハウス、あるいはカフェ・レストランやイベントスペース、ギャラリーなど、多種多様なリノベーション利用による成功事例がありますが、重要な点はその地域の最も身

近な施設であり、コミュニティーの場であった中学校が廃校後も地域住民の心のよりどころとして地域活性化の拠点となることであり、その具体的な利活用方法について平成28年度に検討部会でじっくりと話し合い、その方向性を示していきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○関洋三議長 再質問、三好郁雄議員。

○三好郁雄議員 今、町長の答弁の中に、この未来会議は町民全体が考えるというようにおっしゃったんですが、要するに、町民だけの考えというのは、ある程度の方針を出していただいたほうが、それでないとならなくなるといろいろ出るかもわからないので、その点、町長の考えとの方針というか、そこをちょっとお聞かせ願えへんやろかと思うんやけど、それはいかんやろか。例えば、こういうふうに町としては考えとるか、未来会議やきん、町民全体の、琴南地区全体の問題ではあると思うんやけど、どうでしょうか。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 三好議員さんの再質問にお答えいたします。

今回の未来会議の中で、先ほども申しましたように、検討部会が、今度、立ち上がります。その中で、田口先生を中心にいろいろ議論をしていただいて、今回の部会では、あくまでも町が主導型でなくて、住民の方からぜひこういうようなことをやっていこうというふうな、住民主体の方向性を示していただきたいなというふうに、今回、思っておりますので、どうぞ御理解のほどよろしく願いいたします。

○関洋三議長 再質問、三好郁雄議員。

○三好郁雄議員 それで、今も、2日の新聞やったか、日本にも韓国とか中国とか、外国から爆買い、買い物で来るんやけど、6,637万人か、香川県も22万人も来るといような状況で、このままいきよったら、いずれは買い物だけでなく、観光の面にもだんだんそういうふうになってくるかもわからない。ということになってきたら、要するに、今の中学校の跡地の宿泊地、私、広報委員会で徳島の勝浦の小学校の跡地に行ったんやけど、その小学校の跡地も、教室の中もざっと畳を入れて、全部、民宿みたいな感じにしとるんです。そういうところもあるんで、私もこれはええかないう考えは持つとるんですけど、それは町民いろいろな考えがあると思うんやけど、私なりの意見はそういう考えでおるんですけど。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 三好議員さんの再質問にお答えいたします。

三好議員さん、ぜひ宿泊施設をどうでしょうかという話ですが、それも非常に大事な選択肢の一つであろうと思います。先ほども申しましたように、町民の皆さんに発案していただきたいといってもなかなか難しいと思いますので、町のほうでは全国の成功事例とか、うまくいった、実際にその現場へ行ってかかわった人たちの話を聞くとかで、先進地への視察も考えておりますので、いろいろな選択肢の中から地域の皆さん方がこれがいい

なというのを選んでいただけたらいいと思いますので、資料的には提供は町のほうでいたしますので、よろしくお願いいたします。

○三好郁雄議員 以上で、1問目を終わります。

○関洋三議長 三好郁雄議員の1番目の質問をこれで終わります。

続きまして、三好郁雄議員、2番目の質問を許可いたしますので、続けてください。

○三好郁雄議員 2番目は、住宅火災時に告知放送で正確にできないのかということです。

火災時における告知放送で目標を決めて、その地点より東西南北何メートル、何百メートルという放送をしようとするんですが、実際、確実な火災の起きている地点を示していないのはなぜであるかと。消防法で決められないことがあるのか、また、個人情報のためか、最近ではひとり暮らしの生活者が多いところであるので、ひとつ十分にこの点を考えてほしいという私の質問であります。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 三好郁雄議員さんの、住宅火災時に告知放送で正確にできないのかの御質問にお答えいたします。

現在、建物火災及び林野火災が発生した場合、音声告知放送で火災発生のお知らせを行っており、放送内容の火災発生場所については、地域のランドマークとなる公の施設を目標物として設定し、当該目標物からおよその方角と距離をお知らせすることにより、火災発生場所情報を周知いたしております。

なお、火災発生場所の特定については、通りがかりの方から携帯電話で通報いただくことも多く、通報者からの情報だけでは正確な火災発生現場を特定できないこともあります。

また、音声告知放送は一刻を争う消防団員招集の目的が主であることから、情報伝達の迅速性が求められており、通報情報をもとに現場特定確認を待たずして該当箇所付近への出動を要請するため、緊急放送を実施しているところでございます。

また、個人宅から直接火災発生情報が入電する場合がありますが、個人宅についても、個人情報保護の観点から個人を特定する放送内容は控えておるところでございます。これは消防、救急ともに全国的な傾向の運用状況でございますので、御理解と御協力のほどよろしくお願いいたします。

○関洋三議長 再質問、三好郁雄議員。

○三好郁雄議員 それで、今現在は建物自体が耐震化と火災にはそういうような構造物になっとなるんですが、昔は雨戸にしてもサッシでなかったもので、もし火が上がったら、ぱっと横へ火が出るような感じになっとなるけど、今はもうサッシ化しとなるもので、雨戸でも閉めとったら、中は火の海になっても、なかなか外へは出んという、ちょっとわかりにくいという点もあるんで、それと一番私もいろいろ心配しとることは、ひとり暮らしでやって、よその地区に住んどうる親戚の方でも、何メートルいうたら、ひよっとしたらうちの親戚のあれでないかなというふうに私もそういうことをよく聞かれるんやけど、ほんなら一

遍一遍調べに行かないかんし、夜中も行かないかんと。だから、かえって昔はどこそこ家という放送で、防災無線だったと思うんやけど、そういうことをまだ言いよった時代があったんやけど、告知放送のそれになってから、もう全然、何メーター、第一、その目標物を頭の中で判断するんもなかなかできんという、高齢化社会になってきとるんで、なまじ、ぱっと言ってくれるほうがええという人もおるし、その点をやっぱり考え直さないかん点があるんでないかと思うんですけれども、それは個人情報とかそういうなんではわかるんやけど、それと私も知り合いの方、夜やったんやけど、まだ火が上がってない、ぼやで煙だけやった。場所がわからん、夜の場合。そういうふうには火の手が上がっておればわかりやすいけど、煙だけでぼやぐらいやったら全然わからん。まして私らの田舎のほういうたら、田んぼ道の中を走らないかんきん、農道ですわ。それを縫っていかないかん。ほんなら道を一つ間違って、違うところへ入ったいうんで、そういうのをよく聞いたんやけど、そのこのところも兼ね備えて、ひとつ検討していただきたいと思うんですけど、お願いします。

○関洋三議長 答弁、担当、総務課、齋部正典課長。

○齋部総務課長 三好議員さんの御質問にお答えいたします。

消防のほうで具体的な個人宅を明確に言えないかという御質問でございます。

今、町長のほうから申し上げましたように、やはり昨今、個人情報保護法の関係がかなり強いです。これは日本中そういう傾向があります。

それと一つ、やはり通報関係は、家の方がかけるのもありますが、外部から携帯電話からの情報がかなり多いわけです。携帯電話でかかってくるというのは、その地域の方もおれば、その周辺を通っている通行人からかかってくる人が多いということになります。通行人の方は、おうちのお名前とかそういうのは全然わかりません。要は火事やと。今はどこどこでおるんやけど、どこどこあたりが火事やというようなぼんやりした情報しかいだけません。ただ、消防としては、それを根掘り葉掘り聞いてというよりは、まずある程度の範囲を決めたら、とにかく1分でも1秒でも早く車両を出すと。それと、その情報が私どもに来ますんで、私どものほうは公設消防を早急に出動状態に持っていかないかん。とにかく緊急出動、1分1秒、初期消火が一番大事なんで、消防車両を早く現地に送り込むと。申しわけないんですけど、先ほど町長も言いましたが、主たる目的は、消防団の招集と出動が主になります。もちろん住民の方の危機管理上の周知ももちろんあるのはありますが、一番はやっぱり消防団の一刻も早い対応を求めるためにやっておるところがあります。住民の方はもちろん自分の住んでいる周辺ということで大変御心配はされると思いますが、余り特定な情報を出し過ぎますと、逆にそこに人が集まって、消防車両が入れなかったことも、過去、ちょっとあります。要はそういうことになって、それで消火作業がおくれて、命が助かるものが失われるとか、家が1軒で済むところが延焼したりとかいうようなことにもつながってはいけませんので、とにかく1分1秒早く出動させるということになれば、個人宅なり場所の限定的な表現はなかなかこれは難しいところでござい

ます。間違った表現をしてしまうと、今度、またそちらのおうちのほうから苦情が入ってまいります。そういうこともありますので、最近、消防もそうやし、救急もそうです。救急車両も、夜であれば、鳴らさんと来てくれとかいうようなこともあるんですが、鳴らさなくて出動して、もし何かの事故に巻き込まれたら、これはやはり違反になってきます。ですからなかなかそのあたりジレンマあるわけですが、救急車両という特殊事情をちょっと御理解いただきまして、対応としては、全国的にもこのような対応から外れることができないような状況であることを御理解いただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

〔「個人情報より大事な価値があります」と呼ぶ者あり〕

○関洋三議長 再質問、三好郁雄議員。

○三好郁雄議員 今、総務課長の答弁で、それは1分1秒を争うんはわかるんですが、緊急車両で行く場合に、完全な告知放送で、完全な場所を指定してしまった場合には、親戚とか身内が寄ってしもて、緊急車両、消防車が例えば入れんというのが今まで過去にあったかもわからんけど、要するに地域性も多少はあると思う。町なかと、私らが住んどるような田舎の道路と、道路も極端に田んぼの中へ入っていかないかん場合がある。その場合にでも、かなり間違っ入るとる人もおる。何回か見とるんです、私も、過去にですが。だからそういうことがあってはいかんのやけど、それは1分1秒、私も、この間、総務委員会でちょっと話したんやけど、通行人からの通報というのは、この間、総務委員会でも言ったけど、昔は火の見やぐらがあつて、そこで何時間交代かで番をしよったわけです。今は大体通行人が知らせるとか、そういうふうな格好にはなるとは思うんやけど、たまたまこの間の火事で私のほうであったんやけど、夜、暗くて、煙で全然わからんという。煙と、それから粉じんはぼんぼんと何時間も前から飛びよつたんやけど、私が冒頭で話したように、最近家の建て方が変わるとるんで、その家も前は昔のままの状態やったんやけど、ちょっとサッシに入れかえてしたもんで、火が中てもつてしもて、消防が来たときにはほとんど全焼状態のようになってつたんやけど、これもかなり時間的にはおくれたような感じもせんでもないけど、火が出てなかったら、煙だけやったら夜はちょっとわかりにくいのはわかるんですが、昔は建物火災いうんは私が子供のときはたくさんあったんやけど、今はそこのところは住民が気をつけて建物火災は少なくなりました。山林火災もほとんど林野火災いうか、草焼しよって燃え移つたいうぐらいで少なくなつた。それは喜ばしいことではあるんやけど、そこのところを1分1秒でも早う消防車が駆けつけないかんいう点があるんだつたら、ずばりというのはどうかとは思ふけど、やっぱり告知放送でどこそこの火災という指示をしていただくような方向性に持って行って考えていただいたらと思うんです。

○関洋三議長 答弁、総務課長。

○齋部総務課長 三好議員さんの再質問にお答えします。

昔は火の見やぐらというのがあつて、そこで常時、見張りをしていたというのはあつ

たわけですが、最近はもちろんそういうことはないわけでございます。今は情報が電話、また携帯電話等、いろいろ発達しておりますから、そういう情報をいただくのが先になります。

そういう中で、先ほど御質問の中に、町場のあたりはとにかくとして、郡部、山間地域においては、個人名的なものがあつたらどうだろうかというような御質問もあつたわけですけど、その御質問の中に、消防団員も道に迷っているようなこともあつたという話です。つまり、消防のほうも場所の特定ができない。要は家が特定できてないということです。煙が出ている、火が出ている方向へ向いてとにかく行くという。それも申しわけない、言い方は悪いですけど、やじ馬じゃないですけど、そういう方よりか先に車両を入れて、水の場所を確保してということが先になります。そういうこともあって、消防署のほうとしても、とにかく1分1秒を争い、とにかく初期消火の責任を果たすということがあって、場所を間違ふ、道が複数あれば、ちょっと行き違ふことがあつたりとか、それによってまた初期消火がおくれたりもするわけですけど、場所が特定されとつたら、逆に言つたら、もちろんそこへ直接行けますが、消防署のほうも十分把握できていないことが実はあります。その後、何度も情報が入ってきますので、第一発令した後、いろんな情報を聞きながら、だんだんとあの家やというのが大体具体的にはなりますが、一報を入れるのはやはり場所がどこかの基準となるところの施設、公の施設等を目標物とさせていただいて、そこからどちらの方向の距離ということでさせていただいております。それは町全体同一の考え方を持って当たらせていただいております。このあたりの話は南部消防のほうにも確認をとらせていただいております。これは県下もそうですし、基本的には消防署の中で集まったときにもそういうお話もされとるようですが、そういう中でも、特定の誰々宅という具体的な話はどこもやっぱりやっていないということでもあります。そういうことで、ある程度、情報網が具体的になってきたら、どこどこ宅ということも言えんことはないのかもわかりませんが、おうちの方によっては、逆にそれを言ってくれるなという方も実はおります。そのときに何で言うんやという話もやっぱりあつたりもします。そんなこんなもありますので、今の段階では消防のとにかく初期消火、1分1秒をとにかく争うということで、対応するために、場所の特定よりかは、その周辺にとにかく駆けつけるという行動になっておりますので、そこは御理解いただきたいと思ひます。よろしくお願ひ申し上げます。

○関洋三議長 質問者、よろしいですか。ちょっとその前に、私のほうから、ただいまの件で、私、議長としても、南部消防組合議会の議員として出ております。それとあわせて、合田議員から、前回、そのような質問もありまして、十分確認したところの話を私のほうからちょっと発言させていただいてよろしいでしょうか。

ただいまの話につきましては、緊急システムが南部消防では自動で機械で行うというようなことで、テープでボタンを押せば、すかさず放送できるようなシステムになっておるというのを確認したわけでございますけども、それだったらそれでそのまま進めていく、

経緯としては、まんのう町のほうから南部消防にお願いしたという古い昔の経緯があるようです。そのままになつとるわけなので、それはそれとして、ただ、合田議員、また今回の三好郁雄議員からの質問から言いますと、その対応もやっぱり大事だと思います。私も組合議員としてそれは思います。それで、対応としては、今も告知放送が流れておるようには、これを利用すれば、ただし昼はできるとしても、夜ということになりますけども、当直がおるわけですから、すかさずそれを確認した上、いち早く告知放送を利用して皆さんに知らせるといことはできると思いますので、そういう話をこれから予算委員会等々を通じてしっかり話し合っていたらいいんじゃないかと思しますので、そういうことで御了解いただければと思いますが、どうでしょうか。

○三好郁雄議員 結構です。

それと、これは答弁要らんのやけど、最後にちょっと一言だけ。

要するに、告知放送で言うんやけど、何メートルというのは、大体150メートルとか300メートルとか言いよるけど、例えばお寺とか学校とかいうたら、面積、敷地は広い。それはどこを中心にして、あのお寺から何ぼというんはきちつとは出んと思う。お寺の敷地は我々の犬小屋みたいな敷地の面積じゃない。お寺にしたって、学校にしたって面積は広い。そこを中心からとするとか、玄関から何ぼかとか、それによって100メートルや50メートルはすぐ変わってしまうと思うんで、そのところをお寺や学校いう場合にはちょっと多目の距離をとっていただきたいということで、私の発言は終わります。

○関洋三議長 以上で、議席番号5番、三好郁雄議員の発言は終わりました。

次の質問者に行くわけなんですけども、執行者のほうから、ただいま急にちょっと御報告申し上げたいという事案の申し出がありますので、ここで一旦休憩に入らせていただきます。議場の時計で10時20分まで休憩といたします。以上です。

休憩 午前10時03分

再開 午前10時20分

(三好勝利議員退席 午前10時20分)

○関洋三議長 休憩を戻して、会議を再開いたします。

引き続き、一般質問の通告がありますので、これを許可いたします。

議席番号6番、白川正樹君、一番目の質問を許可します。

○白川正樹議員 それでは、議長の許可を得ましたので、通告に従い一般質問をいたします。

今回、私の質問は3問でございます。1問目が合併10周年の記念事業ということで、2問目が満濃池1周コースの整備計画はということです。そして3問目は、まんのう町に4カ所あるゴルフ場に町特産品のコーナーを設けてはどうかという3問です。

それでは、1問目からいきます。

12月の議会でも藤田議員さんが質問していましたが、そのときの答えとして、実行委

員会を立ち上げて、町民主体の事業をしたいと町長は答弁しています。今月の20日で10周年を迎えます。実行委員会ではどのような記念事業にするのか結論が出たのでしょうか。合併してよかったと思えるような心に残る記念事業を期待していますが、どのようなことを考えていますか、町長に聞きます。お願いいたします。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 白川議員さんの1番目の質問は、合併10周年の記念行事はということでございます。

合併記念行事につきましては、町広報や行政放送、ホームページ等により町民に応募を呼びかけるとともに、町職員からもアイデアを募集いたしました。その結果、46の個人及び団体から86のアイデア、提案があり、これらを取捨選択し、四つの事業に分類して実施したいと考えております。

一つ目は特別事業です。特別事業は合併10周年を記念して、町や実行委員会が主体となって新たに実施する新規事業です。記念式典などを予定いたしております。

二つ目は冠事業です。冠事業は町や既設の実行委員会が実施している事業に「まんのう町合併10周年記念」の冠をつけて実施する事業です。かりんまつりや森のコンサート等を予定いたしております。

三つ目は協働事業です。協働事業は合併10周年を記念して、新規に、または既存事業を拡充して、諸団体が主体的に企画立案・実施する事業です。補助金額の上限を30万円とし、予算の範囲内で事業費の一部を補助します。

四つ目は協賛事業です。協賛事業は諸団体が毎年実施している事業、または新規に実施する事業で、「まんのう町合併10周年記念」の冠を使用していただき、10周年の機運を高めてもらう事業で、のぼり等の貸し出しを予定いたしております。

現在、各種団体からの推薦者や公募により合併10周年記念事業町民会議を立ち上げております。これまで2回の全体会と2回の作業部会を開催し、町民等からの事業アイデアや提案につきまして検討をいただいております。3月末までに事業計画の答申ができるよう会議を進めています。

また、各課の課長補佐等で組織する合併10周年記念事業庁内検討部会を設置しており、町民会議と連動し、事業提案や事業実施の予定等について検討いたしております。

白川議員さんからは、合併してよかったと思えるような心に残る記念事業を期待しているとのお話がありましたが、具体的には合併記念式典や、これに伴う10年の歩み等の映像や動画の作成、記念切手、御当地ナンバーの作成、町出身のアニメ作家の御協力などを検討いたしたいと考えております。

また、記念講演、これも記念式典との連携や個別の取り組みなども考えられます。

また、直接の関連ではありませんが、にぎわいづくりとしてNHKの公開放送、これはラジオ番組「上方演芸会」を6月上旬に琴南公民館で行うことがほぼ決まっております。

加えてまんのう町を発信、PRする意味や住民の方の利用の観点から、国営公園との連

携事業等についても検討いたしております。

議員各位におかれましても、合併10周年記念事業に対しまして御支援、御協力をいただければと存じますので、よろしく願いいたします。

○関洋三議長 再質問、白川正樹議員。 (三好勝利議員着席 午前10時26分)

○白川正樹議員 10周年記念事業は1番から4番までであるということなんですけれども、特に町民といたしましては、多分、1番の特別事業の中の記念式典が気になるところだろうと思います。ほかの協働事業とか協賛事業とか冠事業は、今までしてある事業に少しプラスアルファしてする事業だろうと思いますけれども、特別記念事業だけは新しい今回限りの事業だろうと思いますけれども、これがやっぱり気になる場所だろうと思いますけれども、具体的には、そしたらまだ決まってないんでしょうかね、お願いいたします。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 先ほども申し上げましたように、今、町民会議、また町内の検討部会等で検討いたしておりますので、3月末ごろにはある程度の骨格は発表できるのではないかと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○関洋三議長 再質問、白川正樹議員。

○白川正樹議員 記念事業に関しては3月末に決まるということなんで、期待したいと思います。

それで、協働事業とかには30万円の補助金が出るとか、冠事業は今までやっていた事業に冠をつけてやるということなんですけれども、これは今までやっている事業主体の方には連絡というか、周知はできているんでしょうか、お願いいたします。

○関洋三議長 答弁、担当、企画政策課、高嶋一博課長。

○高嶋企画政策課長 白川議員さんの再質問にお答えさせていただきます。

先ほども町長の御返答の中にございましたように、町内に課長補佐級で検討会を設けております。その中で所管ごとに周知をお願いしておるということでございます。まだ現実的に計画等について具体的なことが下へおりておるかどうかという部分については、各課によって異なっておるとは思います。それと、最終的には本部としまして課長級の会議も持っておりますので、その点の周知については努めていきたいなというふうに考えております。よろしく願いいたします。

○関洋三議長 再質問、白川正樹議員。

○白川正樹議員 今からだということなんですけれども、もう3月末に10周年を迎えます。それで1年間が10周年だろうと思いますけれども、その間に間に合いますか、どうですか。

それと、今、町長が言いましたように、協働事業には30万円の補助金が出るというのは、これは具体的にはどのようにしたらいいんでしょうか。例えば、佐文でしたら、2年に一遍ですけれども、綾子踊りをしております。それに冠をつけるということなんですす

れども、協働事業ということで、今までやっていたことプラス何かをつければ、30万円の補助金が出るということなんでしょうか、お願いいたします。

○関洋三議長 答弁、高嶋課長。

○高嶋企画政策課長 白川議員さんの再々質問に対して御答弁をさせていただきます。

町長の御返答の中にもございましたように、四つの事業として、一つ目として特別事業、二つ目として冠、これは町なり実行委員会が実施しておる事業に冠をつけて、何らかのにぎわいを、いわゆるかりんまつりとか森のコンサートとかをもう少し10周年に対してグレードアップするような格好で考えておりますし、三つ目の協働事業につきましては、これは町がやっている事業ではなくて、いわゆるほかの団体、先ほどもおっしゃったように、町以外の団体が企画立案をしてやっておる事業、これは新しいものでもいいですし、今までやってきたものに何らかのグレードアップ、先ほど言ったように、10周年のためにとこのようなことをつけていただいた部分については補助金を交付するというような考えでございます。

これにつきましても、内容については当然検討させていただいて、何でもいいよというわけではございませんが、今もある程度の御提案はいただいております。こういう部分につきましては、またやっぱり周知の関係もございますので、3月超えてもそういう御提案があれば、検討はしていきたいなというふうに考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

○関洋三議長 再質問、白川正樹議員。

○白川正樹議員 ちょっと細かいことで申しわけないんですけども、例えば綾子踊りの場合でしたら、ことしがちょうど公開の年なんですけれども、それに冠をつけていただいて、30万円の補助金をもらうためには、今までしよること以外に何かをプラスアルファしなければいけないというような、今、発言だったと思いますけれども、それは締め切りとか、内容に関しては綾子踊り保存会が独自に考えたらいいことでしょうか、お願いいたします。

○関洋三議長 再答弁、高嶋課長。

○高嶋企画政策課長 白川議員さんの再々質問にお答えさせていただきます。

実際問題としましては、いろいろな御提案とかいう部分については、2月中旬ぐらいまでということ、広報等の中でお願いをしとったというふうに記憶しておりますが、実際問題として、いろいろな方面から御提案をいただければ、その都度、検討はしていきたいなというふうに考えております。

それと、現在、多分綾子踊り保存会のほうには、またそれとは別に何らかの補助が出ておると思います。そういう補助と合わせてどういう上乘せができるか、それとどういうことをやっていただけるものか、それこそどこかのイベントのようなところでやっていただくとか、それとも加茂神社でやられとる部分のところ、新たにもっとPRをしていただくとか、チラシをつくるとか、そういう面で合併10周年という冠をつけていただいて、

何らかのPRなり発信なりを行っていただくとか、そういうことでもいいのかなというふうには思います。

詳細につきましては、またお話をいただければというふうに考えております。

○関洋三議長 再質問、白川正樹議員。

○白川正樹議員 10周年の事業ですけれども、先ほども言ったように、心に残る記念事業を期待いたします。町民も期待していると思いますので、これからだろうと思います。期待していますので、よろしく願いしたらと思います。1問目の質問を終わります。

○関洋三議長 白川正樹議員、1番目の質問を終わります。

ここで、議長から注意の勧告をします。質問者以外の発言は十分控えてください。お願いします。

続いて、白川正樹議員、2番目の質問を許可いたします。

○白川正樹議員 それでは、2問目の質問に参ります。

満濃池1周コースの整備計画はということです。

これは平成26年3月議会の一般質問では、都市再生整備計画を策定する必要があり、早い時期に策定委員会を設置しますということで答弁がありました。そして、平成27年6月議会では、都市再生整備計画の中で協議会を立ち上げ、満濃池1周コースの整備に取り組んでいきたいとの答弁がありました。そして今回、平成28年3月ですけれども、何年から事業に取りかかり、何年をめどに完成するのでしょうか。具体的な計画が決まっていれば、示してほしいと思います。これはまた町長の公約でもありますので、町民も心待ちにしていると思います。答弁をお願いいたします。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 白川議員の2番目の質問は、満濃池一周コースの整備計画はということでございます。

満濃池一周コースの整備につきましては、当初、平成19年度から実施した都市再生整備計画事業、満濃池周辺地区の中長期事業の位置づけとして取り組む予定で準備を進めておりました。

しかし、平成27年度から事業の採択基準が改正され、対象区域が市街化区域または非線引き用途地域内と限定されたことから、満濃池周辺のエリアは採択基準に合致せず、都市再生整備計画事業では取り組むことができないことが判明いたしました。

そこで、他の補助事業がないかいろいろと検討いたしましたが、適応する事業がなく、苦慮いたしておりました。

そのような中で、対象区域要件として、観光等地域資源の活用に関する計画がある場合は適用となること、その対象となる計画として、香川県において平成27年3月に香川せとうちアート観光圏整備計画が策定されており、その圏域としてまんのう町が含まれていることがわかりました。この計画の中で、まんのう町は善通寺市、綾川町、多度津町とともに中讃交流地区として位置づけられており、国営讃岐まんのう公園周辺エリアを核とし

て、地区内で実施されるまち歩きを、他の地区と連携した滞在プログラムへと展開することにより、圏域内の周遊性を高めると記されております。

これにより、再度、都市再生整備計画事業として取り組む方針を決定し、平成28年度の事業採択に向けて準備を進めている次第でございます。

この事業の交付期間はおおむね3年から5年、国費率は都市再生整備計画に位置づけられた事業のおおむね4割が交付されます。

今後の予定につきましては、平成28年度に都市再生整備計画を作成し、具体的なスケジュールとしては、7月までに仮申請、9月に本申請を予定いたしております。これによって事業の採択申請を行います。

この計画の中には満濃池1周コースの整備とともに、満濃池周辺の観光施設の整備や、先ほど申しあげました圏域内の周遊性を高めるソフト事業を盛り込む必要がございます。

また、同時に満濃池南側の遊歩道未整備区間について全体設計を行い、コース決定、保安林協議、用地協議等を実施いたします。平成29年度からは工事に着手するとともに、附帯事業も進めてまいります。

また、おくれておりました都市再生整備計画策定委員会の立ち上げにつきましては、今月中に設置する予定で現在調整いたしておりますので、よろしく願い申し上げます。

○関洋三議長 再質問、白川正樹議員。

○白川正樹議員 今の町長の答弁の中で、最後の29年に工事にかかるということなんですけれども、工事にかかるといっても、距離的に考えれば、あと半分ぐらいはあると思うんですけれども、何年をめどぐらいに完成する予定でおるんでしょうか、それをちょっとお伺いします。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 白川議員さんの再質問にお答えいたします。

先ほどもお話をさせていただきましたように、この事業の交付期間は3年から5年ということですので、最長でも5年以内には工事を完了しなければいけない、このように考えておりますので、よろしく願いします。

○関洋三議長 再質問、白川正樹議員。

○白川正樹議員 今、5年で1周コースができるというような答弁をいただきました。年末にはいつもこんびらライオンズクラブ主催で満濃池健康マラソン大会が開催されております。それは半周ですけれども、そこででも、参加選手の中には1周コースはいつできますかというような質問をよく受けます。ことしからは、そしたら5年をめどにできますということを高らかに発表してもいいんでしょうか。

○関洋三議長 再答弁、栗田町長。

○栗田町長 白川議員さんの質問にお答えいたします。

先ほども申しあげましたように、採択されれば、まず発表してもいいと思いますし、今も内々ではいろいろ話をしておりますので、まず採択されることは間違いのないと思います

が、それ以後に正式に発表していただきたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○関洋三議長 再質問、白川正樹議員。

○白川正樹議員 それでは、5年をめどにできるということをもう少ししてから発表するということなんで、期待をしておきたいと思います。これは町長の公約でもありますきに、多分、できるだろうと思います。2問目の質問を終わります。

○関洋三議長 以上で、白川正樹議員、2番目の質問を終わります。

続きまして、白川正樹議員、最後、3番目の質問を許可いたします。続けてください。

○白川正樹議員 3問目、質問したいと思います。

まんのう町に、前々から言っておりますけれども、4カ所ゴルフ場があります。そのゴルフ場の特産品を置いてはどうかということを提案させていただきます。

先日の連合自治会と町議会の意見交換会でも提案が出ていましたが、私が知っている限りでは、今現在、町の特産品は四つのゴルフ場には置いてないと思います。町外に特産品をアピールする場所の一つに加えてはどうかと思います。いろいろクリアしなければいけないことはたくさんあるだろうとは思いますが、ぜひとも検討していただきたいと思っておりますけれども、どうでしょうか。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 白川正樹議員の、ゴルフ場のプロショップの横にまんのう町のコーナーをということの御質問でございます。

白川議員御承知のとおり、町内にはこんぴらレイクサイドゴルフ倶楽部、満濃ヒルズカントリークラブ、サンライズヒルズカントリークラブ、タカガワ新琴南ゴルフ倶楽部と県下でも最多の4施設がございます。いずれも民間の営利を目的とする会社ですので、各社の営業目的に合致すれば設置を検討していただけるものと考えております。

今後、町内の特産品のPR、販売促進については、町有施設、第三セクター、商工会、農協等々、あらゆる箇所をターゲットとして推進してまいりたいと思っておりますので、御理解、御支援のほどよろしくお願いいたします。

○関洋三議長 再質問、白川正樹議員。

○白川正樹議員 四、五年先には女子のトーナメントがまんのう町の1カ所のゴルフ場で開催されるかもしれません。そうすれば、全国的にまんのう町をアピールできると思いますので、そのためにそういう特産品コーナーをゴルフ場のプロショップに今から準備をしていったらいいと思います。

特産品をつくって置く場所に、さっきも言ったように、ゴルフ場もつけ加えてもらいたいと思いますが、それで、今、ゴルフ場が4カ所あるとっておりますけれども、町の職員の方も、議員の方もそうなんですけれども、町内の施設を利用してほしいと思います。そういうことで、特産品を置くのをゴルフ場とタイアップしてもらいたいと思います。

それでは、もう一度だけ、ゴルフ場の町の特産品を置くことに関するいろいろアイデア

とかクリアしなければいけないことがあると思いますけれども、頑張ってもらいたいと思います。そういう置く考えがあるかどうかだけ、そしたらお伺いいたします。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 白川議員さんの再々質問にお答えいたします。

町民の皆さん方にもぜひゴルフ場を利用していただきたいというような考えもございますが、そういった意味で、利用促進のためにまんのう町のほうでは年に2回ほど町民ゴルフ大会も開催をいたして、非常に好評をいただいておりますし、白川議員さんの四つのゴルフ場にまんのう町のPRコーナーを設けたらというお話も、非常に素晴らしい提案だと思っております。ただ、相手方がおられますので、ちょっと聞いてみますと、それぞれのゴルフ場によって温度差があるようではございますが、ぜひ置いていただけるように進めていきたいと思っておりますので、よろしくお伺いいたします。

○関洋三議長 再質問、白川正樹議員。

○白川正樹議員 それでは、ゴルフ場に町の特産品が置いてもらえることを、町の人に頑張ってもらって置けたらいいなと私も思いますので、それと職員の方もゴルフ場を十分利用してもらいたいと思います。私の質問を終わります。

○関洋三議長 以上で、議席番号6番、白川正樹議員の発言は終わりました。

引き続き、一般質問の通告がありますので、これを許可いたします。

議席番号7番、白川年男議員、1番目の質問から許可をいたします。

○白川年男議員 それでは、議長の許可をいただいたので、これより一般質問をさせていただきます。

題目は、先般、東かがわ市五名に視察に行ったことに付随した質問と、それから中山間の、例えば多面的事業などで地域の美化、活性化をどういうふうに町のほうも考えているのか、その2点を質問させていただきます。

最初の、東かがわ市五名地区の視察に参加して。

2月9日、建設経済常任委員会において、東かがわ市五名地区の視察に参加しました。この地区は小中学校は統合され、本町で言うならば、琴南地区以上の山深い景観を呈しているところです。しかしながら、本年度、総務省により五名活性化協議会が平成27年過疎自立活性化優良事例の団体に表彰されとると後で私も調べたらわかりました。これは香川県からは22年ぶり、2例目だそうです。

五名に比べれば、本町はずっとずっと開けていると思います。しかしながら、この五名地区から学ぶべきものがかなりたくさん私なりにあったかと思っております。例えば、先般、向こうでもらってきたこういう観光的なマップ、五名に行こうとかいろいろマップ、きめ細かに、このチラシについては、この地区の人が何人かで、もちろんデザインというのは多分専門の人にアレンジしてもらったんでなかろうかとは思いますが、本当になかなかきめ細かな五名マップとか、農家民宿というのをいろいろつくって、年間の行事も盛りだくさんのことをしておるそうです。

(三好勝利議員退席 午前10時52分)

本町においても、資源は大型観光資源、すなわち満濃池、まんのう公園、あるいは森のコンサートなどたくさんあろうかと思えます。これらをもう一つ有機的にPRしたいものと思っています。

ところで、この委員会はイノシシの解体処理施設の見学が大きな目的でなかったかと思えます。この地域では古民家を改造して、その地区の人が保健所の許可をとって、びっくりしたのは、その費用が何と35万円ぐらいでやったと。本当にこの費用についてもびっくりしました。

そして、木村さんという責任者の人に私もいろいろ聞きましたら、こうこうこういう形でしたんですよ。建物、あるいは冷蔵庫とかいろいろ施設は方々から同僚の何人かで調達したんだと。そういう形でびっくり千番でした。そしていろいろ話する中で、さらに私が注目したいのは、ふるさと納税。この東かがわ市というのは本当にふるさと納税に力を入れて、後でふるさと納税のこと、次、行きますけども、東かがわ市であれば、もちろん引田のブリとか、あるいは手袋とか、きのうの四国新聞にも出ておりましたけど、東京の弁護士が体験訓練をすると。そしてここにもいろいろ書いとるけど、この東かがわ市においては、本年度の寄附は2月末現在で8,461件、すごい応募があつて、金額が2億3,600万円に上ると。こういう新聞から見ても、ふるさと納税に力を入れていかなければならないんでなかろうかと私は思います。

ところで、ふるさと納税の件ですが、これは2007年に、ちょっといろいろ調べてみたら、今の官房長官が提唱したそうです。そして一口で言うと、どこの市町村へ寄附してもいいわけで、皆さん知つとると思いますが、例えば10,000円の寄附をすると、2,000円だけ手数料か何かか要るそうで、8,000円の住民税控除をしてくれるわけです。2,000円損するやないかと言いますけども、例えばまんのう町へ1万円のところを寄附すると。そうすると東かがわ市では、いろんな品物の中から好きなものを選択して、これをくださいといえ、それを送ってくれるわけです。そうすると、木村さんという方にも聞きましたけども、半分ぐらいはお返しで返すんだと。あるときに、まきをいろいろつくついたら、あつという間にそのまきが全部売れたそうなんです。売れたというか、まきをくださいよと。だから半分程度をお礼でもらえると。もちろんその人、その人によって、所得によって最高どれぐらいしたらええもんかと、それは調べたらわかるわけです。そして半分は返ってくると。こういうことをずっと2007年からすると、昨今は日本全国で1,000億円に余つてのふるさと納税がなされとるそうです。そしてこれは住民にも非常にメリットがあるというか、寄附すると全然損しないわけです。もちろんお礼は、例えば東かがわ市とか善通寺とかそういうところが保証しとるから、品質のいいものを送ってくれると。そして、地区のPRに物すごくなると思えます。その出品者、例えばまんのう町であればお米とかアスパラとかいろいろあろうかと思えますが、そういう農家とか、あるいは中によつたら宿泊券とか、先般、私、ちょっと熊本の黒川温泉とかその辺へ所用で行ったんですけど、そういうところでも宿泊券まで出しとるわけです。

あと、そういうのをいろいろ調べてみると、ふるさとチョイスというインターネットのサイトいうんか、それを開いてみると、本当に全国、稚内のほうから南の沖縄、石垣島、あの辺までずっとこの地区のふるさと納税に関係しとるのがいっぱい出てきます。

先ほど企画課長に聞いたんですけど、本町はまだそれはやってないと。それはそれでいいんでなかろうかとも思いますが、そこで、私、いろいろと質問させていただきたいのは、イノシシの解体施設の対応、これはきのう、合田委員からの質問で前向きいうんか、広域行政のほうですと、そういう回答をもらいましたが、すぐにはなかなかいかんだろうと思いますが、次の11月の猟期ぐらいまでには、今年度中ぐらいには何とかこぎつけてもらえるもんかどうか、その辺、まずもともとイノシシの解体、この辺の視察だったんで、その辺について、再度、きのうお聞きしましたが、時期とか、今年度中に何とか、その辺の、これも予算とかいろいろあるきん、はい、できますとはなかなか返答はできんだろうと思えます。

一つずつ行きます。そのイノシシの件についてまず一つ返答を、時期的なものを本年度中、それをお願いします。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 白川年男議員さんの質問にお答えいたします。

まず、イノシシの解体施設の対応はどのように考えているのかとの御質問でございます。

議員御指摘のとおり、イノシシの解体処理施設は、保健所の許可をとれば、解体し、販売することができますが、野生鳥獣の肉を食用として取り扱う場合にはさまざまな法令の規定がございます。狩猟者、食肉処理業者、販売業者など、捕獲から解体処理、食肉の流通、販売までの全てを関係者が法令を十分に理解し、遵守しながら野生鳥獣の有効利用を行うことが重要でございます。

公的機関が処理場を設置する場合でも、国や県のガイドラインに沿って多くの関係法令をクリアする必要があります。施設の取得から始まり、食肉処理業、食肉販売業の営業許可は最低でも取得する必要があります。また、加工品を取り扱うとなれば、食肉製品製造業、総菜製造業の許可まで必要になってまいります。食肉処理業の許可取得に関しては、食肉処理業の施設基準に準じた施設、設備である必要があります。

このような面から考えると、コスト的に採算性の悪い施設となってしまう、経済性の悪い施設となります。県外の先進的な事例からも、補助金を投入して建設した施設でも、当初のもくろみより稼働率が上がっていないのが実情でございます。

ところで、京都府中丹地域の3市（福知山市、舞鶴市、綾部市）では、京都府と連携して中丹地域有害鳥獣処理施設準備会を平成25年6月に設立し、3市の共同利用施設である有害鳥獣専用の焼却処理施設を整備しております。これもまたよい参考になるものと考えております。このような観点からも、まんのう町独自の運営設置は考えておりません。

先日、2月12日の農業新聞にも、丸亀市の方が、獣肉処理施設などの環境を整えることが必要だと掲載されておりました。鳥獣被害から逃れるためには、捕獲することが一番

の近道ではありますが、継続性のある効果を得るためには、継続性のある運営や経営が必要となるほか、肉質の管理や出荷量の安定など課題もたくさんございます。民間で始められているところもありますので、今後とも、調査・研究を進めてまいります。

なお、1月6日の香川県鳥獣被害防止対策協議会並びに2月23日の中讃農業改良普及協会幹事会で、広域的に対応することを提案いたしておるところでございますので、よろしく申し上げます。

○関洋三議長 再質問、白川年男議員。

○白川年男議員 丁寧な回答ありがとうございました。ただ、一朝一夕にいかんのは、それを販売となると確かに難しいだろうとは思いますが、この五名の代表、木村さんという方も、それは多分保健所の許可をきちっととってもちろんしとるんだらうと思うけど、見たら、我々でもできるんでなかろうかなと、そこらは我々素人にはわかりませんが、保冷庫とかそういうのを全部どこかから調達してきたんだと。もちろんそれも全部保健所の許可をとって、だから、私、思うに仲南の校舎とか、あの辺の施設でもできるんでなかろうかなとも、これはもちろん私個人の考えですけど、今、町長がおっしゃったように、中讃広域のほうへも話しかけて、そこからいろいろと公的機関が、校舎にしたって公的機関ですから同じだろうとは思いますが、いつごろ、秋できるとか、そこまではなかなか難しいのかもわかりませんが、前向きに対応してくれることは承知したものと理解しておきます。

それで最初のイノシシの分は終わって、次、もう一つのまきから関連して、ふるさと納税について、善通寺あるいは三豊とか多度津とか、その辺もいろいろふるさとチョイスの中で見たら、三豊のクルマエビとか、あるいは、もちろんこの東かがわ市、この辺はいろいろとしとります。このまんのう町もぜひとも町のPR、あるいはいろいろな町の特産品を全国にPRしてもらおうし、町の財政も潤うというので、この最初の部分とちょっとずれますが、課長に町の対応を一言お願いしたらと思います。

○関洋三議長 課長を指名するのはよろしくないということですので。

答弁、栗田町長。

○栗田町長 白川議員さんの通告書に基づいて答弁をさせていただきたいと思います。

まず、一点目のふるさと納税額は近年どのぐらいかということでございます。また、その返礼品としてはどのようなものをしているのかにお答えいたします。

本年度のふるさと納税は2月末現在で件数は17件、金額は総額198万8,000円となっております。ここ3年間を見ますと、26年度が9件78万2,000円、平成25年度が11件141万5,000円、平成24年度が9件72万1,800円となっております。

本町へふるさと納税していただいている方は、毎年、定期的に御寄附をいただいております、本町の出身者であったり、何らかの御縁のある方々だと思っております。したがって、少しでもまんのう町のためとの考えで御寄附いただいておりますことに深く感謝申し上げます。

る次第でございます。

三つ目の御質問は、返礼品としてはどのようなものをしているのかでございます。

現在、ふるさと納税の返礼品としては、ひまわり牛やひまわり油とひまわりドレスシンの詰め合わせを金額に応じてお礼としてお送りいたしております。過去には特産品としてお米などもお送りしたこともございます。返礼品については制度の趣旨の範囲内で種類やバリエーションをふやす努力を行い、まんのう町の魅力的な物産を追加できればと考えておりますので、御理解をいただきますようよろしくお願いいたします。

○関洋三議長 再質問、白川年男議員。

○白川年男議員 ありがとうございます。今の質問、最後、私の希望ですけど、やっぱりPRせななんたら、なかなか17件、ちょっとやっぱりインターネットとかそういうものに載せて、ふるさとチョイスの中へまんのう町はこうこうこういう特産品、あるいは塩入温泉の入浴券、あるいはお米、そういうのを詰め合わせて、そこらを今後十分あれに載るように、この質問に町長のどういう対応をしていただけるものか、それをひとつお願いして。

○関洋三議長 栗田町長。

○栗田町長 白川議員さんの質問にお答えいたします。

白川議員さん御指摘のように、ふるさと納税、非常に町にとりましてはありがたい財源にもなりますし、また、返礼品等において町のPRも大きくできると思いますので、今後、まんのう町といたしましても、ふるさと納税、額が上がりますように取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○関洋三議長 よろしいですか。

以上で、白川年男議員、1番目の質問を終わります。

続きまして、白川年男議員、2番目の質問を許可いたしますので、続けてください。

○白川年男議員 多面的事業などで地域の美化・活性化の状況はということについて、農業を取り巻く環境は政府の言うような甘いものではないと思います。中山間地域においては高齢化が進み、農地の維持管理が困難にもなってきております。

我々中山間地域においても、何軒かは、高齢により農業ができないので、ことしもその地域の者で助け合って、農地を預かったりもしております。そして、今のところ、中山間直接支払制度、それから多面的機能などを併用して集落はそこそこ整備されているのではないかと思います。

自治会資料などから見ても、仲南地区、長炭の奥の地域、この辺は何とか今のところはこの事業に取り組んでいると思います。もちろん琴南とかほかの地域も一生懸命やっているのは、重々、地区懇談会とか、あるいは地区の座談会、自治会のそういうので見てもわかるかと思えます。

自分のところを言うのはどうかと思うんですけど、やっぱり、毎月、定例会いうんか、昔から、お寄りさんというんか、そういうのを行って、中山間はこうこうこうなるとる、

あるいは多面的はこうなるとするというのをともに話し合っ、この多面的事業というのは本当にありがたいもので、それを集落へ還元するような指導が入っておるもので、私のところはほとんど神社の祭典委員から始まって、赤い羽根とか、そういうのを全部その分で自治会のほうでしてくれるわけです。だからぜひともこういう事業を各地域しとるとは思いますが、やはりこういうのをどんと広めて、毎月寄るのがええ悪いは別として、こういうことをいろんな機会に町のほうも広めてほしいもんだと思います。

そこで質問させていただきます。

一つ、中山間直接支払制度に取り組んでいる集落数、二つ目として、多面的制度に取り組んでいる集落数、あと集落営農組織に取り組んでいる集落、それから農業法人は、今、どれぐらい組織の数ができとるか。これは調べたらもちろんわかるんですけど、わかりやすいように、こういうのを全町民に教えてもらって、こういう中山間地域、あるいはそれ以外のところ、こういうことをこの地域はしとるんだと、仲南、満濃、琴南と地域別にどういう状況かと、わかりやすく住民の方々にお知らせお願いしたらと思います。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 それでは、白川議員さんの、多面的事業等で地域で、地域美化・活性化の状況についてはということでございますが、その中のそれぞれの集落数についての御質問でございます。

まず、中山間地域等直接支払制度第4期対策に取り組んでいる集落数については、琴南地区13地区、満濃地区20地区、仲南地区16地区の合計52地区であり、多面的機能制度に取り組んでいる集落数につきましては、琴南地区5地区、満濃地区25地区、仲南地区12地区の合計42地区であります。

次に、集落営農組織に取り組んでいる集落数は、満濃地区の片岡西営農集団の1地区、仲南地区では新目営農集団、照井生産組合、大口営農集団、フロンティア中山営農組合、新目下営農組合の5地区の合計6地区でございます。

集落営農法人の数につきましては、満濃地区で杉ノ上ファーム、K a n n o、グリーンファームさおか、東高篠仲分下、池田、上種子の六つの地区と仲南地区のほのやま、あぐり豊後の2地区で、合計8地区となっておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

○関洋三議長 再質問、白川年男議員。 (三好勝利議員着席 午前11時21分)

○白川年男議員 詳しく、それはまんのうは地域が広いから、こういう形になるんだろうと思います。確かに、私もあるときにお米をつくるのにどれぐらい経費がかかりよるか、そういうのをまず採算してみると、本当に米はおいしいのに安いんです。私も何軒かの農地を預かってお米もつくってますが、計算すると、個人がするから何とかできるんですけど、これを全部人さんにしてもろてすると、とてもやないけど赤字になると。お米も農協あたりも5,000円ぐらいまでと。そうすると、これからの農業は本当に、最初に書きましたが、政府が言うように、なかなかそう甘いもんじゃないと思うんです。

それはさておき、住みやすい集落づくりというのはどういうことやろうかと、私なりに考

えてみると、近隣の住民が寄り集まっていろいろ話し合うと。そしてともにいろいろと行事をこなしていく。そして老若男女が寄り集まって、食事をするとか、小さい集会所で酒を酌み交わすとか、そしてもちろん月に一度はみんな寄り集まって、元気でやりよんかなと、定例会、お寄りさんのものを持つと。そして、やはり元気がなかったら、やっぱり仕事をすべきやと思うんで、私も時々いろんな人、軽作業、そういうのを言うてあげるわけです。こうこうこういう仕事がありますよと言ってあげて、そしてお米とか野菜も私のところも余るから、知った人にもあげるわけです。喜んでくれんでもそれはかまんと。だけど確かにおいしいと。これから先々、私も老齢の域に入ってきてよるが、恒産あって恒心ありいうて孟子の言葉もあるけど、ある程度、お金も要ると思うんです。15万円や20万円ぐらいはやっぱり月に要るかと思うんです。町のほうでも、町長がよく言う元気まんまんまんのう町、誰もが住みよい、住み続けたい集落づくり、それは町のほうはいろいろと練って練って、総合計画の中でしとると思いますが、集落づくり、最後に町長のほうから、元気まんまん集落づくりについて一言披露してもらて、私の質問を終わりたいんですけど、その点をひとつお願いします。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 白川議員さんの質問にお答えいたします。

通告書に基づきまして、中山間を活性化させる町の具体策について説明させていただきます。

中山間地域を活性化させる町の施策については、稲作を中心として、麦、野菜、花卉、果樹等の栽培を支援するとともに、地域を支える担い手育成事業や産地パワーアップ事業、おいで米等ブランド強化事業、鳥獣捕獲等助成事業、畜産収益力強化事業(通称畜産クラスター事業)、薬用作物等振興事業等々に取り組んでまいりたいと考えておりますので、御理解、御支援のほどよろしく願いいたします。

○関洋三議長 いいですか。

○白川年男議員 ちょっと質問から少し脱線したところもありますが、詳しく答弁いただいて本当にありがとうございました。これをもって、私の一般質問を終えさせていただきます。

○関洋三議長 以上で、議席番号7番、白川年男議員の発言は全て終わりました。

ここで休憩をとります。議場の時計で午後1時まで休憩といたします。

休憩 午前11時27分

再開 午後 1時00分

○関洋三議長 それでは、休憩を戻して、会議を再開いたします。

連絡します。川田福祉保険課長公務のため、佐喜正司課長補佐が出席しておりますので、御報告します。

もう一件、午前中の答弁の件で、町長より発言の申し出がありますので、許可いたしま

す。

○栗田町長 それでは、ただいま議長の許可をいただきましたので、発言をさせていただきます。

先ほどの白川年男議員さんの答弁の中で訂正をいたしたい事項がございますので、よろしくお願いたします。

中山間地域等直性支払制度に取り組んでいる集落数については、琴南地区13地区、満濃地区20地区、仲南地区16地区、合計52地区と申し上げましたが、琴南地区13地区、満濃地区21地区、仲南地区16地区の合計50地区と訂正させていただきますので、よろしくお願いたします。

○関洋三議長 以上です。

それでは、引き続き、一般質問の通告がありますので、これを許可いたします。

議席番号12番、三好勝利議員、許可をいたします。

○三好勝利議員 それでは、午後の部に入ってトップということで、質問させていただきます。

私はいつも言うとおおり、質問書は非常に本当に簡単に書いてますけど、まず支所長にお聞きすると、そこらは町長でも結構です。それと建設課長、産業経済、企画、水道、町長となっておりますから、別に難しい問題ではありません。できるか、できないか、やる気があるか、ないか、予算と照らし合わすか、検討するはできたら控えていただきたいと思ひます。

まず一点目ですけど、仲南地区及び一部満濃地区を含むエリアを含む、今までは全般にやったけど、今回は特に仲南地区エリアを重点的にお願いしたいと思ひます。まんのう町一本だから、おまえ、まんのう町の議員だから全部やれやと言われる方もおりますけど、今回は特に仲南地区を主体とした今後の町制10周年記念に合わせて、整備、または整備の忘れたところ、これからやるところを聞きたいと思ひます。

まず、今、申したように、仲南地区全般と、一部満濃地区はどうしてもエリアに岸の上とかあの辺が入ってきますから、町道、農道、県道、国道、水関係、どのように、現在、当初の計画より進行中であるか、まだ手のつけてないところもあると思ひますけど、その点を順次お聞かせ願ひたいと思ひます。

その次に、仲南小学校、仲南支所周辺エリアの小高い丘の上の、もともと仲南地区の中心部でありますけど、工事が進んでおりますけど、まだ総体的に見ると5割ぐらいで、あと5割ぐらい残っていると思ひます。それをどのようにするのか、今現在、どこまで進んでおるのか、どのようにするかというのは我々はわかってますけど、一般の町民方は非常に不安で、ここままやるんだろうか、公民館はずっと残しとるけど、あれを再構築するんだろうかというような意見も出てますし、残してもらいたいという意見も相当ありましたが、町の大きな流れの中と検討委員さんの中で一応解体するということで、今、進んでおります。その辺を、ことしじゅうになるんか、あと3年ぐらいになるのかお聞かせ願ひたい

い。

それともう一点は、これは転ばぬ先のつえと申しますか、もし大災害が起きた場合に、起きなければ結構ですけど、今の拠点で言えば、30年の間に何か大きななんがあると。ただ、我々の場合は津波は一応心配ありません。ただし、山津波、川の氾濫、池の氾濫というのは往々にしてあると思います。その場合の緊急避難地区として高台が上げられておるとは思いますけど、その辺の計画もお聞かせ願いたいと。

それもひっくるめて、新年度、今後の運営について説明願いたいということで、まず支所関係のレイアウト進捗状況について、今現在、これぐらいで、この後、こういうんでこうなりたいと、一応、高齢者の間といろいろあって、桜の木の云々で問題が出てますけど、見てみると、桜並木がちょうど中間の進入路になって、あの桜の並木を中心として両サイドに分かれるような図面になっておるとは思いますけど、その辺は支所長、町長としてはどのようにお考えか、まずお聞かせ願いたい。それが一点目です。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 三好議員さんの、仲南支所周辺整備事業の進捗状況と今後の計画についてという御質問についてお答えいたします。

仲南支所周辺整備事業の進捗状況と今後の計画についてでございますが、現在までの進捗状況についてお答えいたします。

当事業は、平成26年度より仲南支所周辺整備計画をもとに着工いたしまして、平成26年度には、旧仲南小学校プール跡地の駐車場整備を実施いたしました。今年度は、仲南こども園開園にあわせまして、仲南小学校と旧仲南公民館の東側進入路の整備と仲南こども園前の駐車場整備を行いました。

今後の予定といたしましては、平成28年度に旧仲南公民館の取り壊しを行い、その跡地に盛り土をして駐車場となるよう整備いたします。

また、町民文化ホール裏の西側進入路整備も同年に実施いたしたいと考えております。

28年度以降につきましては、隣接のサン・スポーツランド仲南の管理棟周辺整備も実施する予定でございます。

仲南支所及び周辺の施設は災害時の避難所にもなっており、仲南地区防災本部設置場所となる重要な施設でございます。そのためにも早期に完了できるように努めてまいります。

また、町といたしましては、仲南支所周辺には学校を含め公共施設が隣接して仲南地区の中心的な場所となっておりますことから、今まで以上に活気あふれる、また、町民の方々が利用しやすい場所をいち早く提供できるよう努めてまいりますので、御理解のほどよろしく願います。

○関洋三議長 再質問、三好勝利議員。

○三好勝利議員 余り簡単過ぎて、わかりやす過ぎて、例えば災害時の避難場所にも指定するように思っておるといのは、思うのは誰でもできるんです。あそこがええ、この高台がええ、こっちがええといのは、皆、言います。ただそこへやった場合に、どう

いうふうな救助隊の連絡網をすとか、それともヘリコプターの発着場をどういうふうにして、食料をあれするか水を備蓄でどうするか、これは、きのうもどなたかがやった、何千食分の堅パンとか毛布等をセットしとると。我々、幸いにして二百数十名ぐらいの犠牲者で終わるんでないかという、どういうふうなデータからか知りませんが、数字をいただいたんですけれど、これは最小限であって、やはりどこの災害においても、こんな災害が起きるとは夢にも思わなんだという、きのう、きょう、生まれた小学2年や3年生ではわかりませんが、70から80、90の人が、この地区で約90年生きてきて、こんな集中豪雨は夢にも思わなんだ、初めてやと、こんな津波は初めてやというのがありますから、最悪の事態を考えて、本町であれば、あの地区だったらあそこ、こっちやったらかりんの丘公園とありますけど、その辺を、今度、十分に詰めていただいて、今、行政、暴力対応の県警OBの方が来ていただいておりますけど、今後はこれだけ広い面積を有するまのう町ですから、やはり自衛隊のOBの方とか、災害関係のオーソリティーの方をぜひともお迎えして、そういう方に指導をいただいて、何かあったときはこうなるんだというのは、私、もう何回も言いますが、つい最近も5年目になります。3月11日、くしくもうちのちょうど中学校の卒業式です。5年前もちょうど11日の卒業式の日津波が襲ったんです。それである小学校の生徒は全員避難したと。どういうふうな感覚で避難したかという、いつも常にそういうのは朝から晩まで学校の先生に叩き込まれて、もし来たら、何はともあれこの山に逃げる、それしか考えとらなくて、全員助かったと、そういう経緯がありますので、うちの場合も、やはりそういうふうなエリアにありますので、まず200%心配ないんは津波と、大雪も多分ないと思います。ただ、地震と川の氾濫、山津波、池というのは十分ありますから、今後、今の町長の分では、やろうと思っとる、こういうふうにしたというの十分わかります。ただ、それをどういうふうに骨身をつけていくかというのやっぱり十分できておりませんので、県警のOBの方に来ていただいて数年になりますけど、非常にやはり町内が静かで、行政がスムーズにいておると思います。そういうものを踏まえて、やはり自衛隊のOBとか自衛隊の関係の方でオーソリティーの方がこの地区におると思いますので、そういうのを探してお願いして、やはり経験して豊富な訓練を受けた方にやっていただく。余談になりますが、ただ、国のほうでもイノシシが出て困るから、自衛隊にやってもらえんかという国会議員の質問もありましたけど、それも一理あると思います。ただし、その答弁で、自衛隊の場合は、こんなことを言ったら失礼ですけど、人間や家や屋敷を撃つのを訓練して、動物を撃つ訓練はしとらんのやというんで逃げ切ったんですけど、その辺は答弁者も質問する者もやはり無知無能の方でしょう、そういう関係において。自衛隊でずっと長年訓練を受けて、こうなればどうなるかというのを十分熟知した人を選定して、町長、我々はそれはできませんから、執行部のほうで当たっていただいて、普通だったらボランティアで来ると、衣食住、建物と寝るところを心配せないかんけど、自衛隊の場合は、御承知のとおり、寝るところから食べ物から全て持ってきます。宿舎と炊事場と風呂場と、総合的に、大きなマンションが移動してきたと思

ってください。全部持ってますから。それを24時間訓練しとるわけですから。やっぱりそういう経験豊かなOBの方に来ていただいて、今現在、うちのマニュアルをどうするかということをも十分検討していただきたい。ぜひとも、それ、約束してください。難しくはないと思う。やろうと思えばやれるし、どっちでもええと思えばできないし、この地区でもそういう立派な方がおられますから。それについて町長にちょっと、私も時間がないので、町長の答弁の時間は十分ありますから、それに関してどうか。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 三好議員さんの再質問にお答えいたします。

近い将来、南海トラフ地震が起こる確率が非常に高くなっております。まんのう町のほうでは当然津波の心配はございませんが、その他、土砂災害等の自然災害がいつ起こるともわかりません。そういった中で、なかなかまだ町民の皆さん方が危機感も持っていないというふうなことでございますし、自主防災組織も思うように組織が進んでおりません。

そういうふうな中でございますので、三好議員さんから御指摘がありましたように、その道のプロの方にぜひ来ていただいて、指導を仰ぎ、防災面を中心にいろいろ御助言いただいたり、また啓発、啓蒙していくようなことも十分していかなければいけないというふうに思っておりますので、前向きに考えてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○関洋三議長 再質問、三好勝利議員。

○三好勝利議員 町長から啓発という前向きの答弁をいただきましたので、今すぐ、きょう、あすというふうにはいきませんが、いつ起こるかかわからないものに対して備えを常に心構えを持っておくということで、一応の私なりの了解をさせていただきます。

次に、建設、土地改良なんですけど、町道、農道なんかは、今、仲南地区は整備してから約40年になります。40年になったところで、補修したところと、してないところと、本当にいつ路肩が飛んでもおかしくない。というのは、その当時からやったら農機具も大型化になっておるし、車も大型化になっておるし、前にも何回も言いましたけど、デイサービスとか老人ホームとか、そういう関係の送迎の場合は、本直のドライバーを雇うと給料が高いから、事務員兼用で大きな20人乗りを運転してます。時々、朝、会うけど、片方は1メートル50ぐらいあいとるけど、ようバックせんと。だからやっぱりこっちは顔見知りやからバックして上げますけど、そういう点もあるんです。だから以前とやはり世の中の形態は刻々と変わってますから、変わったら変わったように町当局もやっていかないかん。県や国を相手にしとったって、御承知のとおり、今、答弁やとるけど、恥ずかしいですよ、あれ、聞いて。私が思うんですから、私の能力で恥ずかしいと思うんやから、ほかの方はみんな恥ずかしいと思います。

余談になりますけど、日本のばかというメールが出て、何でかいうたら、今まで勤めに行っとった。次、保育園行ったら断られたから、子供を捨てるわけにいかんから、仕事が

できん。それやったら生活ができん。どないするんや。付加価値税のかわりに3万のあれをつけて、4, 500億円ぐらい出して、片方では子育て云々でまだカットしとる。まんのう町はないですよ。かわいそうですよ、あんなん。

それと質問とはちょっと変わりますが、やっぱり臨時職員の雇用云々の場合は、たとえ仕事があっても、みんなの3分の1か半分ぐらいしかないと、過激な労働で。やっぱりその辺も管理するのに、道路だけでもよくしてやらないかん。子育て支援にも役に立つ、幼稚園の送迎、保育所の送迎にしても、道路がまずければだめです。全部、これ、子育て支援に結びついとるから言っとるんですよ。ある人が言う。みんなが喜ぶために、何でうちが協力して土地を提供して道路を拡張せないかんのやという人もおります。けどどうかは提供して、本当にみんなが助かるんだったらという方もおられます。そういうのはやっぱり町のトップですから。

それと土地改良なんかにおいては、前回、12月も地目変更して、農地から宅地に変え、商業地に変え、それだったら税収が50倍、100倍にはね上がってくるといったら、担当の役員さんは、税収が上がろうか、そんなん私は関係ないんやと。そのかわり農地を守って、そこへ豆でも麦でも何でも植えるのがわしらの仕事であって、みんながよくなるかならんかは、そんなんは別の問題やということを書いてます。それは正直な人です。本当ですよ。

我々はやっぱり地域の土地を何とか改良して、変更して、税収でも上がれば、我々も助かってくるし、そういうところでやとるんですけど、町長としては、やっぱり国、県がそういうんだったら、町も仕方ないと言われるかどうか、その点、ひとつお願いします。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 次に、三好議員さんの仲南地区の町道、農道整備等の状況についての御質問でございますが、現在、各自治会ごとに取りまとめでいただきました町道、農道等の地元要望をもとに順次整備を進めております。しかし、30年以上経過した老朽舗装が多く、要望件数に対して整備件数が追いついていないのが現状でございます。そこで平成28年度から3カ年をかけまして道路整備予算を増額し、重点的に整備を計画いたしております。

また、維持修繕だけでなく、主要路線の改良につきましても協議、検討を行っており、早期の着工を目指すものでございます。

また、その他、国道、県道につきましても、国、県に粘り強く要望を続け、町民の皆さんが安心・安全に暮らせるようなまちづくりに努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

○関洋三議長 再質問、三好勝利議員。

○三好勝利議員 国、県に要望するのは、何年も前からそれを言うたびに、国、県に要望する。国、県に要望しても、意味のわからん人がおるから、私、言うとるんです。坊ちゃん代議士、はっきり言って、名前は言いませんけど、苦勞せんで大きくなって、ぽっと親の跡継ぎして代議士になった。ふわふわふわふわ行とる。選挙前は帰ってくる。選挙

済んだら寄りつかん。そういう方をお願いしたって、町長、無理なんですよ、はっきり言って。ようみんな言わんですよ。私ははっきり言ってやるんです。これ、流してもらっても結構です。新聞に出してもらっても、実際、そうです。後ろで議長、ぶつぶつ言うとの、ちょっと黙らせて。私は文章全然書いてないけど、後ろでぶつぶつ言われたら、気が散って質問がでкинのや。これだけしかないんじゃ、見せてやるわ。全部、その場で考えてる。だから町長の返答に対して、私、言いますから。

ですから、その辺がやっぱり町長会に行ったら、まんのう町の土地改良はおれに任せと。あんたらわからんじゃろうがと、遠く離れたもんで。金だけ出せと。あとは全部おれがすると、一番町民が喜ぶように。私は絶対それを思います。交差点の改良にしたって、遠い東京や高松の人がこれを見たってわからんのです、通ったことのないもんが。我々は毎日通つとるからわかるんですよ。

去年の12月にも言いましたけど、先祖からいただいた土地を、あれじゃない、これじゃないと、他人が何でそれを許認可でこうやってせないかんの。こんなはある国と戦国の武将ですよ。おれのもんじゃといたらそうです。先祖からいただいたんですよ、財産に。おまえ売るなよと。どら息子にやったら心配と。兄弟がみんな監督しとるから心配ないわと、いくばくかの財産をもらう。それをあれをしたい、これをしたい、あれじゃない、これじゃない、自分の土地を外部の方が、それも遠く離れた方が、全然関係のない人が、許認可いうのはやっぱりやめて、だから結局過疎の拍車をかけるのはそこなんですよ、一つ。全て子育て支援につながつとるんです。それをやはり子育て支援は子育て支援でわあわあ言う。片方は土地改良で云々言う。それは気持ちはわかりますよ。

でも、やっぱり農水省の金で整備したら、何年からすればもとに戻せば、周辺はやっぱりプラスになるわけですから。したところとせんところでは、したところははるかにいいです。農道の整備、それから農地の整備、これはわかります。ただそれを自由にささんというのがおかしいじゃないですか。そこがだめでしょ。そこでやってもええけど、やっぱり役人がようけおるわけですから、それで半分にしたら、みんな、怒るでしょ、仕事減らしたら。だからああじゃない、こうじゃない、書類も結局、5人も10人も印鑑を押すようになってます。誰かが言わないかんのです、これ。私みたいなちよつとばかげたもんが言わんなら、誰も利口な人はよう言わんでしょ。町長、このテープありますから、今度、町長会議に行ったらかけてください。それでその議員呼んで来いいうたら、私、行って、目の前でしゃべりますから大丈夫です。お互い人間ですから。その辺はやっぱり思っていたかんと、過疎地に例えば嫁にやった娘が、家がないから、今、アパート住まいしとると。呼び戻してこっちへ建てたいと。道路の幅がどうじゃ、これが何じゃいうて、そんなんで許認可ささん自体が間違つとるでしょ。何がふるさと創生ですか。私に言わせたら、ふるさと創生、創生というばかりはいかんと。補助金はつけてやるから、その地区に、おまえのところはまんのう町に合ったようなまちづくりを町長はやれやというのが本当でしょ。ああでもない、こうでもない、金も十分でなかったらつけんと。そういう役人根性

の世界でおるから、やっぱりようならんのです。こっちも頑張って何回も言うように、町長は我々が選んどるんですから。隣の善通寺では、広域がありますからちょっと失礼ですけど、坂出とかかけ離れた広域以外のところだったら関係ないんですから。やっぱりそういう決断力と迫力を持ってやっていただいて、時にはマスコミが取材に来るぐらい、それで言ってください。うちにはこんなちょっとばかみたいな議員がおるんじゃがと、呼んでこいといったら、私、行って、ちゃんとどこでも釈明します。ちゃんと本心を言います。

ですから、やっぱり子育て支援をまんのう町は任せと。仲南地区でもやっぱりああいう施設もつくっていただいたし、今、周辺整備ができますけど、一日も早くなることを、皆、臨んでますから。

産業関係の地目変更とか、12月も聞きましたけど、非常に難しいといえば難しい。これ、難しいというのは人間が決めたことですから。イノシシなんか出てくるのはやかましいのは、これ、自然のもんですから、人間が決めてないですから。こういう土地利用というのは役人さんが決めることですから。もうちょっとフランクに考えて、その土地に合ったようなことを、町長さん、ぜひともやっていただけるか。そんなことを言うばかがおつたら連れてこいと言われたら、私、どこへでも行って釈明しますから、それに対して答弁をお願いします。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 三好議員さんの質問にお答えいたします。

三好議員さん御指摘のとおり、いろいろな制度がございまして、法で決まっておるところがありますが、実際、時間の経過とともに、その法律が今の現状には合っていないようなものもたくさんあるかと思えます。そういったものにつきましては、今の現状に合わせたようなものに変えるように、我々、町村会等を通じて国また県のほうに要望してまいりたいと思えますので、よろしく願いいたします。

○関洋三議長 再質問、三好勝利議員。

○三好勝利議員 随分以前ですけど、大臣をしばらく休憩しとったら、また大臣に復活した若いのがおりますけど、名前は言いません、皆が余りよく知り過ぎとるから。建設大臣のときに、田舎の奥のほうのイノシシや鹿が通るところへ何で舗装して道路をつけないかんいう、ああいうばか坊ちゃんです、はっきり言って。坊ちゃんですから、意味がわからんのです。我々田舎に住んどっても、やはり車が10台通る、20台通る、安全なきちつとした道路が欲しいんです。それを1,000キロぐらい離れたところで、全然行ったことがないもんがぶつぶつしゃべとるんです。それでは地方はよくならんのです。過疎も絶対にだってできません。我々はそういう悩みを抱えてますから。

それから何回も言うけど、そこの交差点改良にしても、やはり地権者がおって難しいです。でもそういうのを法改正で、町ではいかんけど、県、国で法改正いただいて、何ぼと何ぼとなったら、強制執行じゃなくして、お願いして分けてもらう。ただし保証金は十分いたします。ただじゃないんですから。そういうところでお願いしときます。

さっき、町長さん、力強くいただきましたので、次は水道のほうです。

水道は広域合併で、最近、善通寺も坂出も反対しとったけど、ねじ伏せられてやっとオーケーしました。全部そろいました。我々も参画するように全員一致で決まっております。ただ、町長さん、水道の場合は、今は十分水がある。ただし、今度、一本になれば、まんのう町の水が県下全域にパイプで行くわけですから、そうなったら、以前から進んでおる多治川ダム、ちょっと休憩してますけど、ある人に言わせたらもう取り消しやいうけど、あそこは24億円ぐらいの調査費が入るとる、調べてください。毎年、箇所づけて来てましたから。旧まんのう町のときは町長を先頭に、マイクロバスで3回ぐらい県のほうへ陳情に行きました。そしたら観音寺地区は反対やと。うちは単独で町長は5億円出しますと。でも三豊地区は下流がオーケーせんと。県で東のほうの馬力のある県会議員の先生が言われたけど、それはやっぱりやれと。やったら、こっちで水が余れば東へ流れてくると。高知へは行かんと。そういうような立派な県議の先生がおられました。私もそれは感銘しましたけど、やっぱりうちで水を貸し合ってオーバーフローすれば、徳島へ返すんじゃなくて、どこか香川県の中へ流れるわけですから、そういうふうな方策も恐らく地元で経験したものでないかわからんでしょ。3回ぐらい陳情に行きました。新聞にも載りました。テレビにも出ました。ですからそういうこともやはり踏まえて、今後、場所は山脇の多治川、あそこにもしそれが最高でやれば、あの周辺は進入路の整備から、河川の整備から全部できます、ダムだけじゃなくして。ひょっとしたら温泉が出るかもわからん。仲南地区でもほとんど、あの地区に怒られるけど、過疎になりつつあるけど、それがまたストップして、やがて高速道路は新阿讃トンネルを通過して下へ出てくるんですから。そういうなんも構想したら、やっぱりビジョンは幾らでもあります。ただつまらん、つまらん、人間がおらんのじゃ、猿とイノシシばかりじゃいうて明けても暮れても言いよったんでは、やっぱり前向いて進みます。調査費が二十数億積んどるんですから、現地プラントとって、今、生間地区にリース会社ができてます。あそこに現地プラントを組む構想まで出とったんです。それで中央で話して、名前は言えませんが、私が聞いたん、Aという業者のするプレハブの事務所ができて、それでもちょっと流れたんですけど、そこまでいってますから、ぜひとも今の知事さんだったら話せば恐らくわかってくれると思います。ましてや知事さんの出身のおひざ元の我が所の上ですから、その水が流れてくるわけですから。そういうことも踏まえて、ぜひともお願いしときます。

時間もありませんので、30分いうてもあつという間に過ぎてしもて、1時間ぐらいもらえればええけど、そうもいかん。町長さん、水道関係についてどのような御所見を持っておられるか。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 三好議員さんの水道関係の質問についてお答えいたします。

まず、せつかくの機会でございますので、現在の広域水道事業についてちょっと説明をさせていただきます。

現在、県内水道事業におきましては、岡山から受水しております直島町を除く8市8町の水道事業の一元化を目指し、企業団として平成30年4月の発足に向けて協議を行っておるところでございます。

広域化に至った要因は、人口減少に伴う給水収益の減少、それに反して増加してくる老朽化施設の更新事業費の増大、地球温暖化による気象変動に対応するための香川用水の一元化等が課題となり、協議が開始されました。

まんのう町はこの企業団に参加する条件として、議会からの強い要望も受けまして、香川用水の原水はまんのう町外からは持ち込まず、水源の豊かな町として、今後も自己水源で運営していくこと、また、高騰な料金値上げにつながらない適切な事業計画を策定することを条件に協議、交渉を行っておるところでございます。

現在、この二つの条件のうち、本町は島嶼部以外で香川用水を持ち込まない県内唯一の自己水源での運営が決定しており、残りの適切な施設整備事業量と適切な水道料金については鋭意交渉を進めておるところでございます。

つきましては、企業団発足まであと2年となりましたが、水道課としては老朽施設や老朽管の更新を適時進め、町道県道等の改良工事があれば、住宅地の増加を見込みながら、先行投資として配水管の新設を計画いたしております。

28年度の具体的な計画といたしましては、老朽管更新がおくれておりますは創設の一番古い満濃地区でありますので、仲南地区を含め老朽管更新事業を10カ所と、仲南地区の主要浄水施設である野口浄水場及び関連設備の遠方監視警報システムを最新機器へ更新いたしたいと考えております。

次に、琴南地区半坂配水池に点検不要の塩素生成装置の設置や、町内全19カ所のポンプ設備のうち未更新の12カ所について数年をかけオーバーホールをいたしたいと考えております。

また、有収率向上対策といたしまして、漏水を早期発見、早期改修するため、4年から5年を1周期として町内をローテーションで一巡する計画的で継続的な漏水調査委託業務を実施していく予定でございます。

ライフラインである水道事業は、経営、業務両面において安心・安全・安定が大前提でございます。企業団発足後はもちろん、発足までの2年間におきましても確実に更新事業を進捗させ、安定した水道事業の運営と住民負担を最小限度にするよう全力で取り組んでまいりたいと考えております。

特に、水道事業の土台でもありますおいしい水としての水質と安定した水量を確保した水源は、気象変動の激しい昨今において細心の注意を払う必要があると考えております。いずれにいたしましても、香川県、まんのう町におきましても、水源の確保というのは非常に重要な事項と考えておりますので、ダム等の整備につきましても、今後、粘り強く働きかけてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○関洋三議長 再質問、三好勝利議員。

○三好勝利議員 町長さんから力強い答弁をいただきました。本当にダムを今から新規に調査して、何十億円の環境アセスメント、全ての調査が要りますから、終わっとるわけですから、これを活用すれば二十数億円助かるわけですから、これ、皆さん、知らんでしょ、多分。県に行ってください。破棄したらわからんけど、逆に追って、国から全部調べたら、資料は残っていて、毎年箇所づけて来てましたから。ぜひともそこら辺は、我々は水源があるから大丈夫というんじゃなくして、香川県の水は、何分の1かはうちを改良すればできるから、その分だけちゃんと見越してくれと。ただ数百億円の金が要るけど、それはどぶに捨てる、海へ捨てるんじゃなくて、この山へ投資すれば、ちゃんと皆さんの飲料水になって返りますよということを力強く宣言してあげてください。今の浜田知事さんやったら絶対に理解していただけます。

私がそもそも言ったでしょ。知事さんの選挙前の最終の決起大会に、私、陳情書を書いたんですから。そのときには、香川県知事、浜田恵造様と持っていったら、私、まだ選挙は済んでおりませんと、それがきっかけですから。それからこの間もお会いしたら、名前もちゃんと憶えていただいております。そこの道路の改良もいったら、やっとできたかと、大変遅くなって済みませんでしたと。ありがたいですよ。こういう知事さんですから、今がチャンスですよ、町長さん、本当に売り込んでいくのには。そしたらあの周辺がまた整備になるし、また地元の仕事もふえるし、そういう両方でぜひともお願いしておきます。

それと、次、産業経済は大分皆さんが質問してましたから、企画のほうなんですけど、この間の全協で祭りとか云々を企画のほうで面倒見ていただくということで、それは非常にいいでしょう。産業経済、朝、来たらイノシシの相談、次は減反で、次は減免措置や、次に来たら、今度、祭りの盆踊りどないするねんと、頭が回転し切らんです。ですから企画が持つておれば、ある団体が主催するものと祭りとではマッチングするから、ちょうどいいんじゃないですか。私はそう思いますよ。ぜひともそれで進めてください。

それと企画課の担当なんですけど、これは内容書いてないですけど、デマンドタクシー、企画の担当でしょ、課長。こういう現象が起きとる。朝一番にお願いしますと配車を頼んだら、ある人はわかりましたと。次に、朝一番でいったら、もう満車になったから乗れませんと。実際には2人しかとってなかったことも全部データ出とるんです。何で満車や言うたんやという、例えば仲南地区やったら、西地区と東地区とに分かれたら、西地区から出れば、こんぴらに出てくるのは相当時間がかかります。東地区を拾ってくれば、やっぱり30分余分に時間がかかります。そういう点で、満車じゃとうそを言って、今の年寄りには少々だましたってだますことはできませんから。三好さん、満車やいうてどないなっとなやと聞いたら、いや、そういうあれがある。それやったら自分でタクシー呼ばないかと。極端に言ったら、月、火、水、木、金、5日であつたら、多いほうを月、水、金とって、あとの火、木を1便に振り分けるとかいう方法もできると思うんです。私も意味がわかったらんで、現地を知らんもんで、さっきの県の道路課と一緒に。現地を知らんも

んはわからんけど、私は現地を知って、ちゃんと利用者から聞いてますから。

それとね、こんなぶっちゃけたこと言いますけど、やっぱりデマンドタクシーも光ケーブルも、全部住民を幸せにするためにつくったんでしょ。ここにつくった担当課長がおりますが、会社のため、我々町のため、議会のため、ええ格好でやったんじゃない、使う弱者の利便性を図ってやったんでしょ。それやったら、今、何ぼかでチャーターしてます。はっきり言いますけど、1人1回往復300円やったか、とにかく1回券を買ったら300円です。それを全部町が取るんです。そしたら、運転手はこれを聞いてったら怒るものは怒ってもかまん。私はお客さんから聞いて、乗っても乗らんでも、1日行ったら一緒やと。行って戻ったら給料は一緒やと。ほんならどこかの世界と同じやないかと、言いにくいけど。やってもやらんでも一緒やと。1日半ドンで、上がって、下がって、昼休憩してやったら、1日の日当は決まっとる。5人乗っても、1人乗っても、ゼロでも一緒やと。やっぱりそういうシステムがわかったんだったら、ちょっとやっぱり改良する時期に来ます。ですから1人何ぼか、例えば20人積んだら500円プラスとか1,000円プラスとかになれば、やっぱり自分のプラスアルファになりますから、お客さんを大事にしてくれると思います。そういうシステムを、今すぐ返答はならんでも、次のあれまでに考える。だから結局総務課で段取りして、使うのは我々教民の立場の弱者が使うんですよと何回も言っとるんです。利用の関係のない人が全部決めよるんです。利用する人はそこへ全然入ってない。その辺は、町長さん、合併10周年になって、新年度に向けて改革できるところは、大きなあれは要らんのですから、やるかやらないかです。町長さん、このことを、時間が余らないんですけど、まだちょっと相当時間も要るけど、しようがないです。今のことについて。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○三好勝利議員 そんなむちゃいうか、そんなんやったらやめてしまうぞというかどっちか。

○栗田町長 三好議員さんの再質問にお答えいたします。

デマンドタクシーの運行方法でございますが、今までも、町民の皆さん方にもいろんな御意見をいただいて、改革できるところは改革しておりますし、今回も少しですが町外にも車が行けるようになりまして、町民に喜んでいただけるような改革を今後もしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○関洋三議長 再質問、三好勝利議員。

○三好勝利議員 やっぱり担当ではなかなか言いにくいところもあるけど、町のトップの最終的な判断は町長がするわけですから、やっぱり町民が、私が思った、弱者が喜んでもらうためのシステムを多少なり変更していくということですね。これは恐らくデマンドタクシーを利用の方が聞いたら、泣いて喜ぶでしょう、本当に。私はそう思います。ですから決めるときに、我々の教民のメンバーを何人かちょっと配置していただくと、聞いたことがよくわかるんです。全然関係のない、ことでんの社長やJRの偉いもんや、

全然関係のないもので決めるでしょ。やっぱりおかしいですよ、これは。担当課長やって全部はわからんはずです、福祉とは別やから。

その辺を10年を迎えたわけですから、近隣町から喜ばれて、この間も大野原へ行ったら、まんのう町のバスですか、まんのう町はいいですねと、何がええんかと思って、町長がええんですかといったら、いや、まんのう町は何でもかんでも、まんのう町、まんのう町と、皆、言いよると。大野原やってええやないですかと。ハウスもんで園芸収入をたくさん上げとるじゃないですか。いや、まんのう町はええというんです。ほんならまんのう町へ来てください、安い土地がありますから。若いもんだったら、今、150万円の補助金で、ひょっとしたら、次、また200万円でもしようかと町長が張り切っておりますから、ぜひともお願いしますといって帰ったんですけど、行く先でそうやって言ってもらえば、やっぱりまんのう町よかったと。私は議員やとかそんなことは誰にも言ってないですよ。ただ、まんのう町から来たんやというたら、やっぱりそういうことを言うてくれるんですよ、ところどころで。ですから私が言う、まんのう町から選んだ町長で、近隣町から選ばれてない、ただ広域行政の場合は別と言ったでしょ。ぜひともそれをお願いしますときます。もうあとちょっとですから。町長、了解していただけますね、今のは。

まだ大分時間が欲しいけども、押し迫ってきました。ですから道路改良と水道の件は持っていくけど、やっぱりこれだけの自己水源を持ちながら、議員の中でもいろんな意見がありましたけど、やっぱり皆さん了解して、町のあれが大きなスクラム組んでいくというわけですから、やっぱりポイントをアピールして、どいやということをぜひともお願いしておきます。

それから、建設関係はさっき聞いた。支所周辺も今のあれで、また、途中で一、二回、会合していただかなければいけない場合もあると思いますけど、ぜひとも皆さんが了解して、本当にやってよかったと。あの公民館だって潰らんでいいとあったけど、結局、一応閉鎖することで、皆、オーケーしていただいたんですから、本当にこれはなかなか難しいですよ。地域の中でそれだけの理解者がおるからできたんですから、ぜひともお願いしておきます。

○関洋三議長 以上で、議席番号12番、三好勝利君の発言は。

○三好勝利議員 最後の締めくくりがちょっと尻切れトンボになったけど、町長は理解していただいておりますから、ぜひとも、今、力強い答弁をいただいたわけですから、ぜひともお願いします。

○関洋三議長 終わりました。

[「まだ言いよるやないか。過ぎとる。」と呼ぶ者あり]

○三好勝利議員 誰が言いよん。

[「あんたや。」と呼ぶ者あり]

○三好勝利議員 すぐ要らんこと言いよるやないか。

[「何を言よんや、こら、ええかげんにせえ。」と呼ぶ者あり]

○三好勝利議員 議長、あんなんほり出したらどうなん、ふが悪いわ、あんなん。我が言わんとって。

〔「ふが悪いやろ、おまえ、自分ところの議員を批判して、何を考えとるねん」と呼ぶ者あり〕

○三好勝利議員 何をや。

〔「言うたことわかっとるやろ」と呼ぶ者あり〕

○三好勝利議員 何人おるかって、数の勝負じゃが、今。

〔「自分が選んどる。」と呼ぶ者あり〕

○関洋三議長 次に進む前に休憩をとります。議場の時計で14時ちょうどまで休憩いたします。

休憩 午後 1時44分

再開 午後 2時00分

○関洋三議長 それでは、休憩を戻して、会議を再開いたします。

引き続き、一般質問の通告がありますので、これを許可いたします。

本日最後になりますが、議席番号13番、大西豊議員。

○大西豊議員 通告に従いまして、一般質問を行います。

一般質問通告後、平成28年度の施政方針、また、きのう、きょうと10人の方々が一般質問を行い、重複するところがありますが、私はまんのう町が農業立町でありますので、そういう見地から一般質問をさせていただきます。

まんのう町の農業の振興について。

本町の基幹産業は農業です。農業の振興なくして本町の発展はあり得ないのです。農業の将来展望は決して明るいものではないことも事実です。生命を維持するのに不可欠なものは食糧であり、その食糧を確保する農業人口の高齢化に伴って、農業従事者も高齢化しています。そして現状は、後継者がいないので、農業は自分の代で終わりだといった話をよく耳にします。後継者がいるかないかは個人の問題にとどまらず、まんのう町の基幹産業である農業だけに看過できない問題であると考えます。

この問題を解決するために、まんのう町総合計画の中においても、意欲ある担い手や農業生産法人、集落営農組織の育成と農地利用の集積を図り、高付加価値の安全・安心な農作物の生産物と、魅力的なまんのうブランドの特産品の開発、消費者と提携した地産地消やグリーン・ツーリズム等の取り組みを目指すとうたわれています。

また、まんのう町まち・ひと・しごと創生総合戦略においても、農産物の価格低迷や経済効果性の悪化により農家の高齢化が進み、農家単位での営農では農地の維持が難しいので、新規就農者は限りなく減少しております。就農者支援が喫緊の課題です。町の農業が抱える課題の改善策の一つとして集落営農化を推奨していきますとあります。そこで、優先順位をどのように進めていくのでしょうか。

また、農業振興を効率的に進めるために、総合計画でも厳しい財政事情のもとで住民が安心して暮らせるように、住民と行政が協力してともに汗を流す協働のまちづくり、自助、共助、公助がうたわれておりますが、地域リーダーの育成が重要であると考えますが、どのように進めていくのかお伺いいたします。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 大西豊議員の、まんのう町の農業振興についての御質問にお答えいたします。

まんのう町総合計画では、基本目標3「活力創造と改革のまち」の、政策目標6「地域経済の活力を高めるまちづくり」の、施策目標23「農林業の振興」の中で、農林業者の取り組みとして、後継者の確保・育成とともに、集落営農組織を立ち上げ、地域農業の維持・振興を図りましょう。また、女性や高齢者、定年退職者などが農業に従事できる仕組みをつくりましょうとなっております。

農林水産省の平成28年度予算の概要におきましても、政策目標として、担い手が利用する面積が今後10年間で全農地面積の8割となるよう農地集積を推進するといたしております。

農業振興の優先順位については、まんのう町地域農業再生協議会を中心に、意欲的な後継者や新規就農者、農業生産法人の育成を図るとともに、集落営農組織の設立に取り組み、地域リーダーの育成と地域ぐるみでの生産体制の維持に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお伺いいたします。

○関洋三議長 再質問、大西豊議員。

○大西豊議員 再質問を行います。

まんのう町の28年度の施政方針の中で、総合戦略は総合計画同様に総花的なところがあり、実施に当たっては選択と集中の観点から事業を進めていくとの方針を述べられております。

そういう中で、今、町長が方針について細かく発表されたわけですが、私たちの世代、昔を振り返ってみますと、大家族であり、その家庭で農業をし、また、そのときに道具とか人力が足りない場合には、隣近所の助け合いということが広く一般的に行われておりました。

生産物で言いましたら、その当時はたばこについても、やはり五、六軒の農家が共同で乾燥したり、作業をしていたことを思い出します。

そういう中で、12月の一般質問においても集落営農についてということで質問して、町長のほうから集落営農は重要性が高まりつつあって進めていく、メリットとしては生産コストの低減とか役割分担とか農期の一元化管理ができて非耕作地が減少するとか、集落全体の活性化が図られるという、本当に昔のよさ、メリットを報告をされましたが、私もそのとおりだと思います。

そういう中で、先ほども言いましたけど、総花的ということで、全部できたら一番いいん

ですけど、私が考えますに、昔のよいところは取り入れていただいて、私も何十年かは農業をしてなかったんですけど、去年の8月から地域の先輩の方に集落営農に取り組んではどうかということで、毎月1回、勉強会、最近では3月をめぐりにいうことで月2回、県の普及所の片桐さんとか、町の担当の方、またJAの担当の方から質疑応答の形で進めてまいっております。今のまんのう町の農業を支えるのは本当に集落営農しかないと思います。

例えば、一番優秀な事例やと思いますけど、26年度の事例を見ますと、麦を1反つくる場合、実際の売価は2万二、三千円だそうです。それにいろいろな補助金等々を追加されますと9万円余り、それと米を同じようにつくった場合、食用米、また飼料米を合わせてつくれば、1反当たりいろいろな補助金を含めて十六、七万円、その上に法人化すれば、農機具を買う場合に半額補助とか、そのときの判断はその事業経営のあり方、採算性のことも昔と違って評価して支払われるようであります。そういう何をするにしましても、私も試験的に5人で勉強会をしとるわけですが、今、5人で麦を3町ぐらいつくっております。基盤整備をした田んぼで、田んぼが青々を生き生きとしとるように感じますので、こういうことはそういう国の制度にのっとって、例えば日本の国は米が余っとるから、それ以外の飼料米にするとか、麦をつくってとかすれば、本当に採算は私はとれると思います。

そういう意味で、私も、今、勉強している途中であります。ちょうど吉野地区には集落営農はありません。特定農業とかいろいろ資格を持ってされとる方はあるようでございますが、とりあえず基盤整備をして、本当に優良農地が未耕作地にならないように、地域の者と一緒に勉強会をしとるところでございますが、12月の課長の答弁でも、5月の町政懇談会ではいろいろ詳しく説明するというところでございました。そういう意味で、私は何度も言いますが、総花的じゃなくして、選択と集中ということ、特に集落営農については本当にいろいろな事業に関連すると思うんです。地域のコミュニティーづくりも含めてですけど、いいところばかりだと思います。そういう中で、今後の進め方について町長のお考えをお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いします。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 大西議員さんの再質問にお答えいたします。

今、日本の農業が直面している大きな曲がり角に来ておると思います。四十数年続いた減反政策が大きく変更されて、新しい時代に入ってきたなということを感じております。

そういった中で、やはり農地の集積等が非常に重要になってこようかと思っております。詳細につきましては、担当課長のほうから説明させていただきますので、よろしく願いいたします。

○関洋三議長 担当課、産業経済課、高橋守課長。

○高橋産業経済課長 大西豊議員さんの質問にお答えいたします。

前回の白川年男議員さんの質問の中でもお答えいたしましたけども、ただいま、まんの

う町内で集落営農で法人化している団体が8団体、それから集落営農組織に取り組んでいる団体が6団体でございます。あと中山間とか多面的機能で取り組んでいる団体も50団体とか42団体ございますので、この中山間なり多面的機能に取り組んでいる団体をもう少し強力にいたしましたら、集落営農、それから最後には法人化になろうかと思っておりますので、産業経済課といたしましては、いろいろな御援助をしてみたいと思っておりますので、今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

○関洋三議長 再質問、大西豊議員。

○大西豊議員 10人の議員の一般質問の答弁の中にもありましたが、今、私、手元に持っておるんですけど、まんのう町総合計画後期基本計画の中にも、改革と協働の輝きのまちづくり、その中でこれを達成するために数値目標の設定をうたわれております。その中で、今、数値を申していただきましたが、そのときの集落営農組織の普及率とか云々についても書かれておりますけど、今の国の補助金制度に比べて、私はこの目標が、数値が十分できてなかったかと思っております。いろいろ勉強していく中において、必ず集落営農事業に取り組めば、農業でも採算はとれると思っておりますので、あらゆる機会を通じて、啓蒙、啓発活動をしていただきたいと思っております。

それと、先ほど一般質問の当初で言うたんですけど、指導者の育成ということが本当に大事だと思います。今後につきましては、全ての事業にかかわって来ると思っておりますので、最後に町長にお伺いしますが、具体的に指導者がおってそういうことをすれば、先ほど、これまでの一般質問でいろいろな議員が、職員をふやせ、ふやせと言いましたけど、やはりスクラップ・アンド・ビルドで新しい事業に取り組む場合には、新しい、古いは分けにくいと思っておりますけど、協働のまちづくりにおいて町の職員は新しい部分に力を注いでいただきたいと思うんですが、そこら辺について、再度、町長にお伺いいたします。

○関洋三議長 答弁、栗田町長。

○栗田町長 大西豊議員の質問にお答えいたします。

農業につきまして集落営農組織、また農業法人等をつくることは、いずれにいたしましても、やはり中核的に動いていただける地域のリーダーの要請というのが一番重要でなからうかと思っておりますので、町といたしましても地域のリーダーの育成と、地域ぐるみでの生産体制の確立に努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○関洋三議長 再質問、大西豊議員。

○大西豊議員 最後に、積極的に集落営農に取り組んでいただくことをお願ひ申し上げて、一般質問を終わります。

○関洋三議長 以上で、議席番号13番、大西豊議員の発言は終わりました。

一般質問をこれで終わります。

本日の日程は全て終了いたしました。

なお、次回会議の再開は、3月17日、午前9時30分といたします。本議場の御参集願ひいたします。

本日はこれで散会いたします。

散会 午後2時16分

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

平成28年3月3日

まんのう町議会議長

まんのう町議会議員

まんのう町議会議員